

## ヤクシカの現状について (希少種・固有種等の調査・モニタリング結果概要)

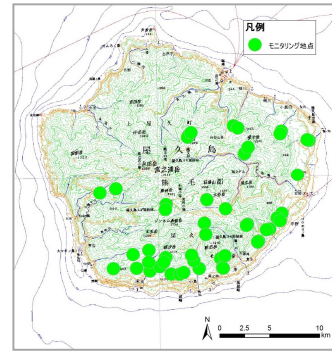
環境省九州地方環境事務所

### 1. 希少種・固有種モニタリング

#### (1) 調査概要

平成23・24年度に始めた希少植物・固有植物の分布・生育状況モニタリングの2回目を実施した。

調査実施箇所は、南部から北東部を中心に、第1回調査で継続してモニターすることとした調査区とヤクシカが好きなツルランやガンゼキラン等が確認されたその他調査区など計48地点とした。



記録内容
草本層の優占種
草本層の植被率
定点撮影(近景・遠景)
調査対象種名
確認地点
個体数又は面積
全長
シカ採食による影響
食痕の有無・状況・程度等

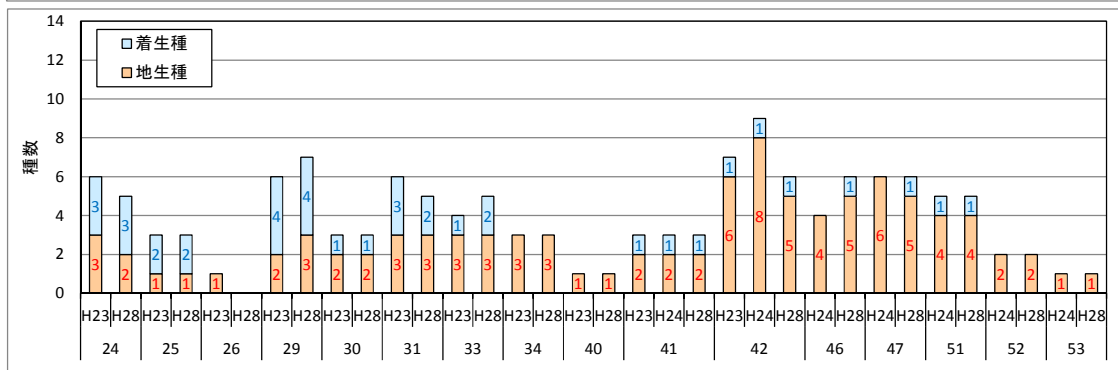
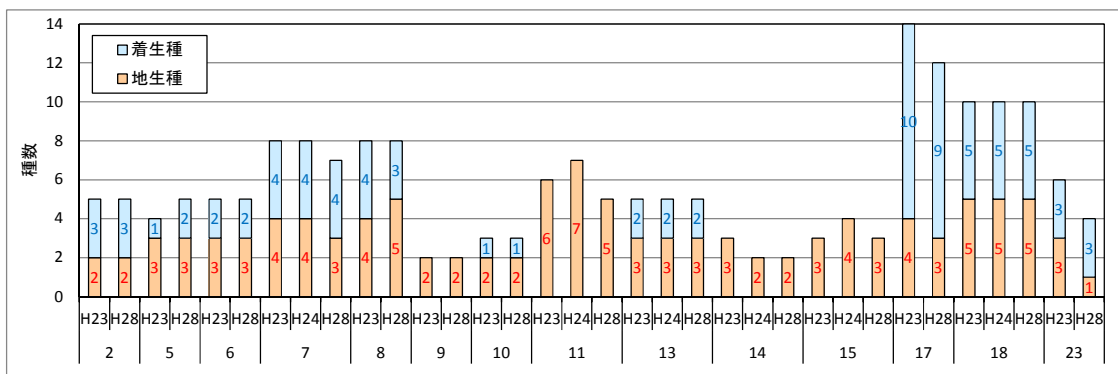
調査方法は、第1回調査時に設定した調査区(20×20m)で同様の方法、時期、対象種(241種)で調査を行い、右表の内容を記録した。

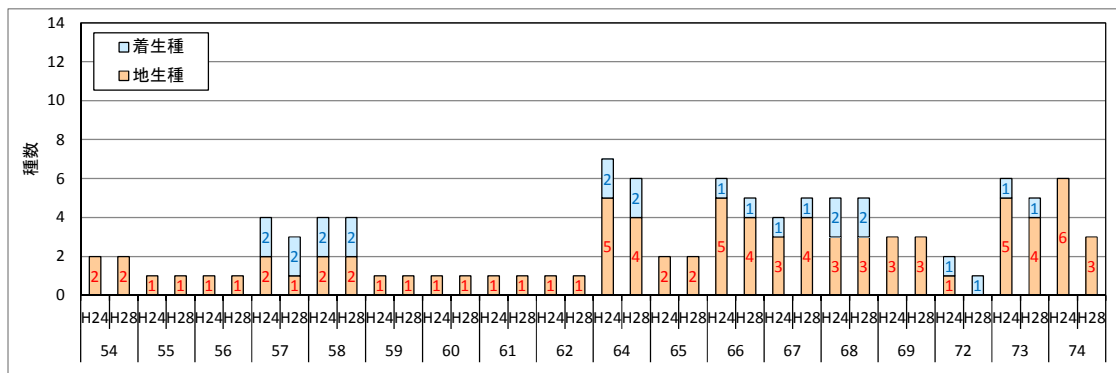
#### (2) 調査結果

今回調査で、67種の調査対象種を確認した。

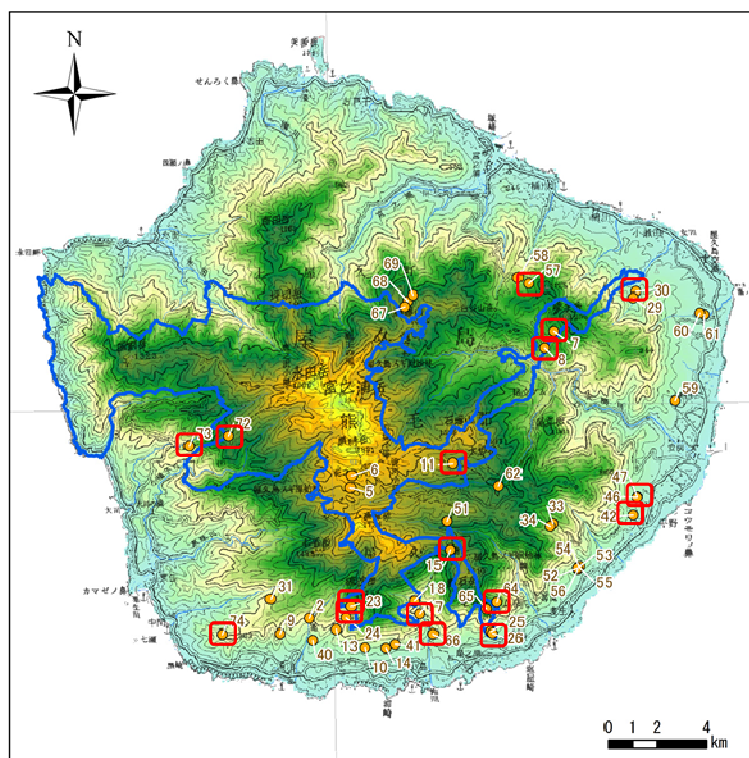
##### ①種数の経年変化

48地点中、14地点で地生種の種数が減少した。





図：確認種数の経年比較



図：前回調査以降地生の調査対象種（地生種）が1種以上消失した地点

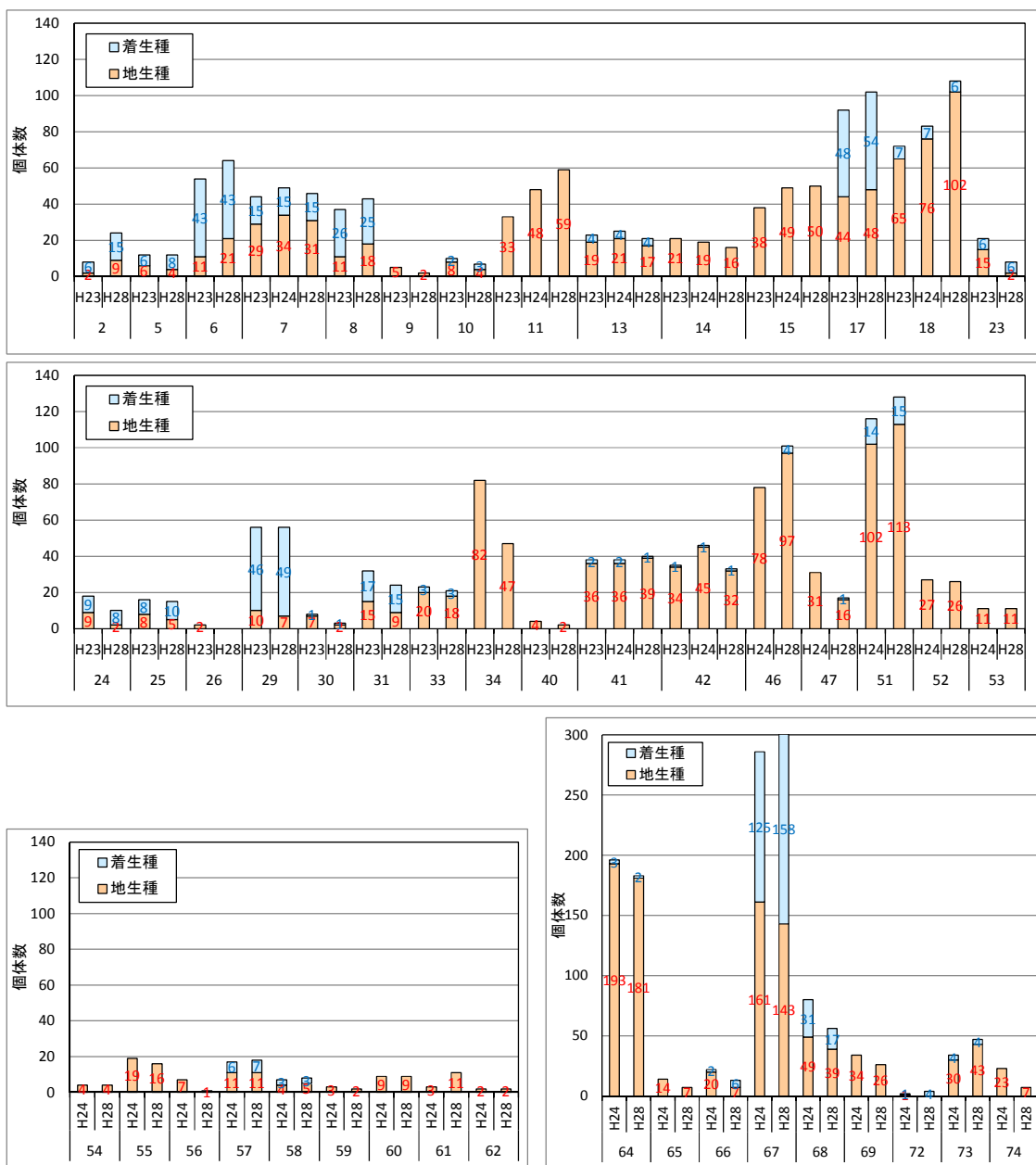
②個体数の経年変化

48 地点中、30 地点で地生種の個体数が減少した。

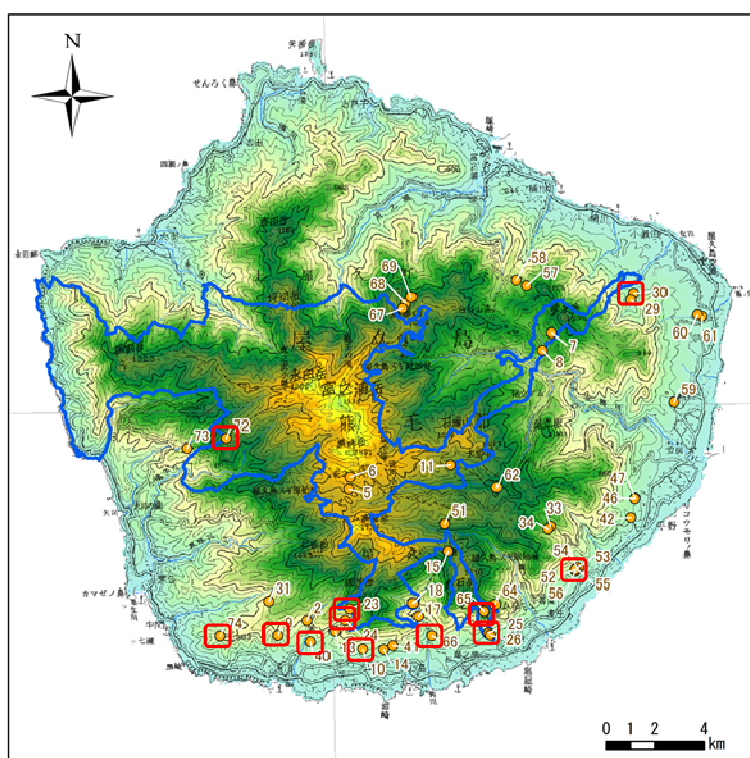
半数以上の個体が消失したのは、No.9、10、23、24、26、30、40、56、65、66、72、74 の計 12 地点であった。これらの地点では、主にダルマエビネ (No.9)、ツルラン (No.9、10、24、26、40、66)、ヤクシマアカシユスラン (No.23、24、42、74)、トクサラン (No.30、66)、ガンゼキラン (No.56、74)、オニカンアオイ (No.65) の個体数が大幅に減少していた。

ダルマエビネ、ツルラン、トクサラン、ガンゼキランといった大型のラン科植物は、多くの個体にヤクシカの食痕が見られたことから、ヤクシカの採食の影響で減少して

いるものと考えられた。



図：確認個体数の経年比較



図：前回調査以降、調査対象種（地生種）の個体数が半数以下になった地点

(3) ツルラン、ガンゼキラン等の生育状況

ヤクシカが好むと言われているツルランやガンゼキラン等の大型ラン科植物に着目し、ヤクシカによる希少種への採食影響の把握を試みた。

対象種は、ツルラン、ガンゼキラン、キリシマエビネ、ダルマエビネ、トクサランおよびレンギョウエビネの6種とした。

①確認地点数

第1回調査と今回調査での対象種の確認地点数を比較した。ツルランやダルマエビネは、確認地点数が2割程度減少した。

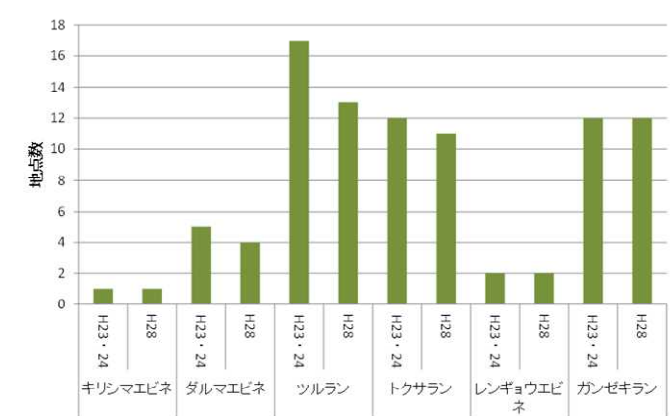


図 大型ラン科植物の確認地点数

②個体数

第1回調査と今回調査での対象種の確認地点数を比較した。レンギョウエビネ以外の種はいずれも個体数が減少した。第1回調査で個体数が多かったツルラン、ガンゼキラン、トクサランは、いずれも2割前後減少した。

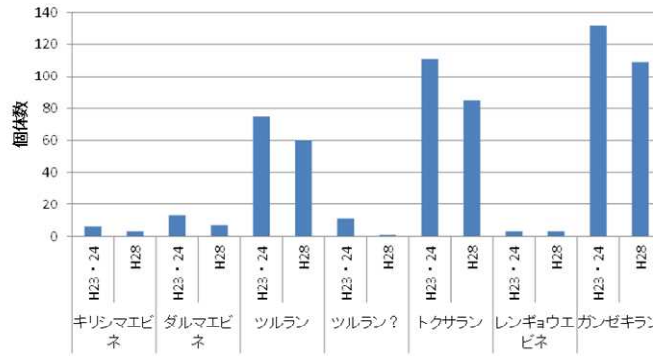


図 大型ラン科植物の個体数

2. 国内希少種生育状況調査

(1) 調査概要

平成 23・24 年度に始めた希少植物・固有植物の分布・生育状況モニタリングサイトのうち、種の保存法に基づき国内希少野生動植物種に指定されている等の対象種 11 種が含まれる調査区 6 地点を調査した。

調査方法は、第1回調査時に設定した調査区 (20×20m) で同様の方法、時期で調査を行い、右表の項目を記録した。

記録内容
草本層の優占種
草本層の植被率
定点撮影(近景・遠景)
調査対象種名
確認地点
個体数又は面積
全長
シカ採食による影響
食痕の有無・状況・程度等

(2) 調査結果

4 種の国内希少種が確認され、過去の調査結果との比較から、地点数の消失や確認種数の減少はなかったがフササジランの個体数が著しく減少していることがわかった。

表 調査対象種の確認地点数・個体数の変化

No.	分類群	科名	種名	地生/ 着生	確認地点数		確認個体数		
					H23・24	H28	H23・24	H28	
1	シダ植物	ヒカゲノカズラ	ヒモスギラン	着生	1	1	3	3	
2			ヒモラン	着生	1	1	1	3	
3			キジノオシダ	ヤマソテツ	地生	1	1	4	4
4			シノブ	シノブ	着生	0	1	0	5
5			イノモトソウ	ハチジョウシダ sp.	地生	0	1	0	8
6			チャセンシダ	オオタニワタリ	着生	1	1	7	5
7				フササジラン	着生	3	3	219	41
8			ツルキジノオ	ヒロハアツイタ	着生	1	1	59	59
9			オシダ	ムカシベニシダ	地生	1	1	15	20
10			ヒメシダ	シマヤワラシダ	地生	1	1	8	8
11				タイワンハリガネワラビ	地生	0	1	0	4
12			メシダ	ヒメホウビシダ	着生	1	1	71	71
13				ホウライイヌワラビ	地生	1	1	4	3
14				ヤクシマタニヌワラビ	地生	1	1	1	1
15		ウラボシ	タイワンクリハラシ	着生	0	3	0	24	
16			タイワンアオネカズラ	着生	1	1	1	1	
17	合弁花類	シソ	ヤクシマナミキ	地生	0	1	0	1	
18	単子葉植物	ラン	マメツタラン	着生	1	1	1	1	
19				ムギラン	着生	1	1	2	2
20				ダルマエビネ	地生	2	2	8	5
21				ツルラン	地生	3	2	7	4
22				トクサラン	地生	1	1	9	9
23				キバナノセッコク	着生	1	1	1	1
24				オサラシ	着生	1	1	11	11
25				ヤクシマヒメアリドオシラン	地生	1	1	10	1

表 各調査地点における確認個体数および全長平均（単位：cm）

No.	科名	種名	地生/ 着生	個体数/ 全長平均	調査地点/調査年度												
					H23	H28	H23	H28	H23	H28	H23	H28	H24	H28	H24	H28	
1	ヒカゲノカズラ	ヒモスギラン	着生	個体数 3 全長平均 ※ ※													
2		ヒモラン	着生	個体数 1 全長平均 ※ ※													
3	キジノオシダ	ヤマソテツ	地生	個体数 全長平均								4	4				
4	シノブ	シノブ	着生	個体数 5 全長平均 ※													
5	イノモトソウ	ハチジョウシダ sp.	地生	個体数 全長平均			8										
6	チャセンシダ	オオタニワタリ	着生	個体数 全長平均						7	5						
7		フササジラン	着生	個体数 全長平均	17 8	9 8	200 7	30 7		2 10	2 6						
8	ツルキジノオ	ヒロハアツイタ	着生	個体数 全長平均								59	59				
9	オシダ	ムカシベニシダ	地生	個体数 全長平均								20	19				
10	ヒメシダ	シマヤワラシダ	地生	個体数 全長平均								8	8				
11		タイワンハリガネワラビ	地生	個体数 全長平均								13	16				
12	メシダ	ヒメホウビシダ	着生	個体数 全長平均								71	71				
13		ホウライイヌワラビ	地生	個体数 全長平均								4	3				
14		ヤクシマタニヌワラビ	地生	個体数 全長平均								1	1				
15	ウラボシ	タイワンクリハラシ	着生	個体数 全長平均			3	1			20						
16		タイワンアオネカズラ	着生	個体数 全長平均						1	1						
17	シソ	ヤクシマナミキ	地生	個体数 全長平均	1	2					60	1					
18	ラン	マメヅタラン	着生	個体数 全長平均	1 ※ ※	1 ※ ※											
19		ムギラン	着生	個体数 全長平均	2 ※ ※	2 ※ ※											
20		ダルマエビネ	地生	個体数 全長平均			5	3	3	2							
21		ツルラン	地生	個体数 全長平均			5	3	1	1	1						
22		トクサラン	地生	個体数 全長平均					9	9							
23		キバナノセッコク	着生	個体数 全長平均							1	1					
24		オサラン	着生	個体数 全長平均	11 ※ ※	11 ※ ※						40	30				
25		ヤクシマヒメアリドオシラン	地生	個体数 全長平均	10 4	1 2											
地生種合計(個体数)				10	2	10	14	13	12	1	0	17	20	15	20		
着生種合計(個体数)				18	25	17	12	200	31	11	29	130	130	0	0		
地生種合計(種数)				1	2	2	3	3	3	1	0	4	5	1	1		
着生種合計(種数)				5	6	1	2	1	2	4	5	2	2	0	0		

※1   : 国内希少野生動植物種を示す。

※2 ※ : 体長未計測

